

第 1 学年社会科学学習指導案

日 時	平成 24 年 10 月 25 日 (木) 第 5 校時
学 級	1 年 1 組 (生徒数 男子 16 名女子 15 名計 31 名)
場 所	1 年 1 組 教室 (南舎 4 階)
授業者	花 井 眞

- 1 単元名 第 3 章 「世界の諸地域」
第 1 節 アジア州 ―急速に進む成長と変化―

2 指導の立場

(1) 教材観及び指導観

新学習指導要領では、ウ「世界の諸地域」の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させるとある。また、主題の設定においては教師によって設定されるものであるとされていることから、東京書籍の教科書の主題に沿って、本単元のアジア州の主題を「急速に進む成長と変化」とした。

単元構成としては、まず単元の導入では、「身近なものから見たアジア」について、「経済の成長」に関する学習テーマが設定できるよう興味関心をもたせていく。また、地球儀や地図帳などを活用しながら、アジア州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観させる。さらに、アジア州の地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現させていく。

本時では、アジア州の中でも「著しい経済成長」をしている「インド」と「中国」について、経済成長を支える要因を資料から見出し追究させていく。終末では中国やインドが急速に経済成長できた理由は、中国やインドの共通点である多くの人口、豊かな労働力、また、中国の豊かな資源とインドの高い IT 関連の技術力、開放政策または外国企業との関わりが関連していると気付かせたい。さらに、急速に経済成長する中で、都市部と農村部では貧富の差も激しく生活水準も低い地域があることも追究資料からつかませたい。

導入段階の課題の生み出しの場面として、アジア州の経済成長の理由について、「都市化が急速に進むアジア」や「入り交じる文化やアジアの産業の変化」の学習で得た知識を基に、どの生徒にも予想がもてるよう導入資料を工夫した。さらに展開では、生徒のおぼろげな予想が課題解決の糸口になるよう、できるだけ生徒の言葉を生かした追究の視点を教師の意図的な板書で構造的に明確に示していく。また、全体交流では、生徒間の発言のつながりによって多面的・多角的な考察となるよう教師側の意図的な指名や問い返しなども行っていく。

(2) 生徒の実態

社会科の学習において、一人一人の生徒が導入資料について様々な気付きがもてるように、提示する資料は興味関心のあるものとしている。多くの生徒が課題に対する予想をもつことは、苦手である。また、個人追究では資料から分かる事実の読み取ることすら難しい生徒が多かった。「第 2 章 世界各地の人々の生活と環境」では、教科書の資料や自作資料に記述された内容をワークシートにまとめる学習を基本として進めた。また、個人の考えをもてない生徒は、毎時間のペア交流を取り入れたことで、仲間の意見を参考にして、少しずつ自分の意見がもてるようになった。地理的分野では、課題解決の予想の段階で導入の写真資料から気付いたことや疑問に思うことについて意見交流できた。しかしながら授業の展開においては、生徒一人一人が読み取った事実や考えを仲間に伝え合い、自分の考え方を広げたり深めたりすることができるまでには至っていない。

(3) 「インド」と「中国」についてのレディネステスト (1 年 1 組 31 名 9 月 28 日実施)

主な問題例

- ・ 白地図の世界地図に「インド」と「中国」の位置を記入する。(完答 16 名・中国のみ正解 6 名・インド正解 1 名・未記入 8 名)
- ・ 「インド」と「中国」の首都名を答える。(完答 0 名・北京のみ正解 18 名・インドのみ 0 名・未記入 13 名)
- ・ 「インド」の国のイメージは？(カレーなどの食文化について 17 名・ヒンドゥ教など宗教に関わるも

の4名・気候について3名・人口について1名・未記入6名)

- ・「中国」の国のイメージは？(中華料理,人口,オリンピック,尖閣領土問題,反日デモなど)
「中国」の国のイメージについては複数の解答があったため人数の集計はしていない)

以上のようなレディネステストでは、「中国」についてはほとんどの生徒は知識があり最近の領土問題についても高い関心があることが分かった。また、複数の解答を30名が記入し、その中でも人口や中華料理が多く、中には尖閣領土問題,反日デモなどについて中国を批判するような記述も5名ほどいた。(未記入は1名。)
「インド」についてはほとんど知識がないという結果になった。このことから、生徒の実態として、「中国」には高い関心があるが、「インド」にはほとんど関心がないということが言える。そこで、本単元の導入や第1時や第2時では、アジア州全体を概観しながらも、特に「中国」や「インド」について人口や自然環境,文化や産業などについてより身近なアジアの国として重点的に学習をすすめた。そして、本時では、既習事項の知識理解の活用もとに本単元の主題である「著しく経済成長する国」として「中国」や「インド」を取り上げ、アジア州の地域的特色をつかませたい。

3 研究主題との関わり

学ぶ喜びを実感する生徒の育成

～基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図る学習指導を通して

【研究内容2】単位時間における指導の工夫

(1) ねらいに応じた導入の在り方

- ・導入で、キーワードとなる用語を説明し、ワークシートに記入させる。
- ・導入の写真資料は「問いが生まれる写真(既有知識や生活経験との矛盾・ズレを含むもの)」や「多様な視点が求められる写真」「思考を発展させる写真」を提示した。
- ・地理的分野の学習活動では、1学期から「子どもは、資料をどのようにとらえ、読み解いていくか」という視点に立ち、一人一人の子どもの見方・考え方を育ててきた。
- ・導入の資料提示では「生活経験から(自己の既有知識と整合性をはかる)推論をすること」や「自分と他人との異なる考えに触れる(話し合いや討論)」ことで課題の生み出しができるように「わかること・気がついたこと・疑問に思うこと」という発問を行った。

実践例：写真資料【5月の鯉のぼりと雪】



【5月の鯉のぼりと雪】の写真資料提示では、春の季節に雪が降っているという生徒の生活経験とのズレから、「なぜ、春なのに雪が降っているのか?」や「冬の季節に鯉のぼり?」などと生徒に多くの気付きや疑問が生まれる。1学期はこのように生徒の生活経験のずれを生む資料を提示しながら資料活用能力を身に付ける指導を繰り返し行った。このようにして生徒は資料活用能力を身に付け、導入段階で、多くの気付きや疑問を自ら生み出すことができる考え実践してきた。

(2) 生徒一人一人のつまづきに応じた指導・援助の在り方

- ・学習のめあてをもち、ねらいと課題が一致するようワークシートを活用した。
- ・ワークシートには、仲間と意見交流をし、自分との意見の違いに気付くことができたとか、写真から情報を読み取ることができたとか自己評価ができるように記入欄を設けた。
- ・基礎基本の復習プリントを単元の終末に行い、互いに教え合いながら問題に取り組むことで学びの成果を確認させることができた。

(3) 自己の伸びを実感する指導の在り方

- ・新学習指導要領の地理的分野では、地図の読図や作図などを通して思考力や表現力などの育成を図るとともに世界の様々な地域調査や身近な地域調査において、地図を有効活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させることとしている。そこで、地理の学習では単元のまとめを単に新聞に表現するにとどまらず、コミュニケーションに重点をおいて聞く話す・伝える工夫の3点に重点をおき新聞発表をする授業展開を仕組んだ。

4 単元指導計画と単元の目標

- アジア州の地域的特色を理解するために、「経済の成長」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究させる。
- アジア州の学習テーマを追究していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現させる。
- アジア州に関する統計資料の分析、雨温図・主題図・写真の読み取りや比較・関連付けなどの地理的技能を育ませる。
- アジア州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観し、地球儀や地図帳などを活用しながら、それぞれの基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。

(1)【内容のまとめりとごとの評価基準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的な事象についての知識・理解
●アジア州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観する中で、特に経済成長に関心を持ち、設定された学習テーマを意欲的に追究しようとしている。 【第1・2・3時】 ●日常よく見かけるアジア製品などから、アジア州と自分たちの生活とのかかわりに関心を持つようとしている。【第1時】	●アジア州の経済が成長してきた理由について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【第3時】 ●広範なアジア州の経済成長の過程を、地域ごとに理解するとともに、州全体の地域的特色を考察している。【第3時】 ●中国やインドの経済成長の特色や課題について、多面的・多角的に考察している。【第4時】	●アジア州の人口増加、都市と農村の変化、国家間の結び付きなどについて表した主題図や写真などの資料を収集している。 【第5時】 ●収集した資料から、アジア州の地域的特色について有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。【第6時】	●アジア州について、変化に富む自然環境と、都市化が急速に進む様子を概観し、それぞれの基礎的・基本的な知識を理解している。 【第2時】 ●アジア州について、「経済の成長」の学習テーマを基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。【第3時】

(2) 単元指導計画 (全6時間)

内容	学習活動	評価規準	教師の手立て
1 単元の課題設定	○資料提示 100円ショップの商品などを見せ生産国を紹介。身の周りのものの生産国を確認する。 ・中国、インド、韓国、パキスタンなど。 私たちの身近な生活にアジアの製品が多いのはなぜか。 ○予想する。 ・輸入しているから。・いろいろな国と貿易をしているから。 ・安いから。・欧米より距離的に近いから。 ○調べる。 ・アジアの国は多くの農産物を生産している。 ・パソコンやテレビなども多く生産している。 ・人口が多い。国土が広い。資源が豊富など ○まとめる - アジアの多くの国がモノを多く生産していることがわかった。 - 中国では、北京オリンピックもあったし、今アジアの国々が経済成長しているようだ。 単元を見通す課題 (生徒の予想) ・人口が多いからかな。・土地が広いからかな。	●アジア州の「経済の成長」の要因について学習テーマを設定し、意欲的に追究さしやうとしている。 (関心・意欲・態度)	□生徒にとって身近な商品に触れさせる。 □ペア交流でつまずく生徒に助言する。また、さまざまな視点をもつ生徒を意図的指名をすることで追究する視点を広げる。 □単元の設定では、今後の見通しがもてるよう教科書の見出しに触れ単元の課題の予想をもたせる。

2 アジア州をながめて	○資料提示 世界の掛図を示し，アジア州とはどの辺りか確認する。 アジア州のイメージをもつ。(イメージマップ) アジアの自然や人口の特色を明らかにしよう。 ○ 作業する。 自然環境や人口の特色が分かる白地図に色を塗り作業する。 ○ 作業からわかったことをまとめる。 ・地形は8000M級の山が多いな。 ・気候は，季節風などの影響を受ける地域があるし，乾燥帯や冷帯などさまざま。 ・人口は世界的にも多く，特に中国やインドは多いな。 また，都市部に人口密度が高い。	●変化に富む自然環境や，都市化が急速に進むアジアの概観を理解している。(知識・理解) ●アジアの人口の特色をキャッチフレーズで表現している。(思考・判断・表現)	□各州の位置や名称を再確認する。 どの生徒も確認できるように地図帳の再度マーカーペンで色付けさせる。 □分布図などの読み取りについて，どのあたりに何が 多いのか？少ないのか？と記述方法を板書し全体に助言する。
3 アジア州をながめて	○ 資料提示 伝統的なアジア州の宗教や暮らしの写真 アジアNIESやASEAN諸国の都市部の景観写真 アジア州の伝統的な文化と近代的な都市の様子について調べよう。 ○ 調べる ・四大宗教が広まっているな。・米やパン類を主食にしている。 ・いろいろな国や民族があり，言葉や習慣もそれぞれ。 ・近代的なビルがあるし，昔と比べると輸出品では機械類が多い。 ○ まとめる アジア州の文化は多くの民族や文化があるな。また，最近では，輸出品が機械類に変わり，パソコンやテレビなどの生産も多い。 伝統的な文化もあるけど，とても産業は盛んな地域もあるな。	●アジアの産業別人口と，おもな製品の生産量におけるアジアの占める割合の帯グラフから，アジアの工業化の様子を読み取っている。(技能) ●アジアを概観する中で，急速な経済成長に関心を持ち，その過程を意欲的に追究している。(関心・意欲・態度)	□景観写真の読み取り方法について説明する。 □帯グラフの読み取り法について全体に説明する。 □四大宗教やさまざまな民族の生活習慣などについて調べるように追究視点を明らかにする。
4 経済成長がいちじるしい中国とインド(本時)	○資料提示 GDPと人口の変化のグラフ ・中国が一番成長している。・ブラジルやインドも成長している。 ・インドも中国も人口増加している。・人口の多い国と関係している。 ・国土の面積が大きい国と関連している。 中国やインドが著しく経済成長できたのはなぜか。 ○予想し，調べる。 ・中国やインドは外国の進出を受け入れる政策を進めた。 ・IT産業にインドは力をいれて，技術者を育成している。 ・華人やインド系の人々は世界で活躍し技術を伝えることもしている。 ・中国では，豊かな資源を利用し人件費を安くして物を生産している。 ○ まとめる 中国やインドが急激に経済成長できたのは，豊かな資源や労働力を生かしたからだけでなく，外国企業や人との関わりを積極的に行うよう に変わってきたからだと分かった。また，貧富の差が激しいことが課題である。	●中国とインドの急速な工業化の様子を，様々な資料を関連付けることで読み取っている。(技能) ●中国やインドの経済成長の特色や課題について，多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)	□GDPの用語や人口のグラフの読み取り方法について説明した上で発問する。 □既習事項である人口増や国土の面積が大きいことに触れた生徒を価値付ける。 □追究する視点を板書で確認し追究資料と生徒の予想をつなげる助言をする。

5 急速に変わる東南アジア	○ 資料提示 近代的な都市の様子とスラム街や貧しい農村の映像資料 なぜ、アジアは急速に経済成長しているのに都市と農村ではこれほどまでに貧富の差が激しいのか。 ○ 予想し、調べる。 ・多くの会社が都市にあるから。・農業では生活できないから。 ・人件費が安いからなど。植民地時代と関係。 ・人口と仕事の量が合わない。仕事がないから。 ○ まとめる 東南アジアの国々では、都市部では発展しているが、農村部では、機械化が進んではいるが、原料となる農産物はもうけがすくないということからより良い収入の仕事を求めて都市部に行く人が増えた。	● 東南アジアと自分たちの生活とのかかわりに関心を持ち、その理由を意欲的に調べようとしている。(関心・意欲・態度) ● 東南アジアの都市と農村の変化について、機械化、若者、都市問題の三つの語句を使って説明している。(思考・判断・表現)	□ 映像資料からわかったことをできるだけ多く発言させ、課題につなげる。また、急激に成長している中国でも同様なことがあったと前時の学習内容にも触れる。 □ キーワードを提示してまとめを書くように指導する。
6 多様な民族と経済成長	資料提示 ドバイの都市の景観写真と鉱産資源の分布図 アジア州でもなぜ、ドバイに各国の富豪が集まるのか。 ○ 予想し、調べる。 ・石油があるから。・鉱産資源を獲得しようとしているから。 ・多くの外国企業が石油を輸入したいと考えているから。 ・石油で多くの国が繋がり、アジア全体にも関連している。 ・リゾート地があるから。 ○ まとめる。 アジア州では、最近急激に産業が発展しているようすがわかった。国土面積は小さいがドバイのように鉱産資源などで豊かな国もあり、また、国土面積も人口も多い中国やインドのよう豊かな労働力や技術などを利用する国もあった。一方貧富の差も激しい地域もあるし、さまざまに民族や宗教の違いなど多様な地域であることもわかった。	● アジアで、急速な成長が進んできた理由について、節の学習を踏まえて論述したり、意見交換したりしている。(思考・判断・表現)(技能表現・思考判断)	□ 景観写真と分布図から読み取れたことをできるだけ多く発言させ、課題の予想につなげる。 □ 単元の課題について、アジア州の経済成長と変化についてわかったことを各ワークシートのまとめを参考に記述させる。

5 本時のねらい

1990年代以降中国とインドが急激な経済成長をしている要因について、様々な資料から考察することを通して、豊かな資源や労働力だけでなく、外国企業や人との関わりを積極的に行う経済開放政策を基に発展してきているからだと理解できる。(思考・判断・表現)

6 本時の展開(4/6)

過程	学習活動	指導・援助
つかむ	1 導入資料の簡単な説明を聞き、資料を比較して気付いたことを発言する。 ・中国が一番成長している。・ブラジルやインドも成長している。・インドも中国も人口増加している。 ・人口の多い国と関係している。・国土の面積が大きい国と関連している。・古い町が急に新しくなった。 (問い返しの発問) →人口が多ければ経済成長するのか？また、人口が中国やインドより少ない南アフリカでも経済成長していることから、他に要因があるのでは？ 中国やインドが著しく経済成長できたのはなぜか。 2 課題解決のヒントとなる資料から予想し、調べる見通しをもつ。(個人追究からペア交流後、全体交流) ・いろいろな国が中国やインドに進出している。 ・豊富な資源があるから。・働く人が多いから。 ・人口が多いので外国に働きにいくから。 生徒のおぼろげな予想と考える視点をつなげる。 3 個人追究を行う。 ・資料から自分の考えを書く。 4 全体交流を行う。 追究の視点1 開放政策と自由 【資料3】経済特区(都市部と農村の様子)とバンガロール 中国では、沿海部には経済特区という地域でハイテク産業が発展しているな。インドでもバンガロールという地域で情報技術が発展しているな。いずれも、外国企業の進出があったからだ。 でも、とても貧富の差が激しく苦しい生活をしている人も多いな。 追究の視点2 世界で活躍する人 【資料4】中国系やインド系の人々 インドでは、英語や数学の教育水準が高いから、世界からIT産業の技術者の育成に力を入れているのだ。また、中国は華人と呼ばれる人も世界で活躍していることも分かった。 追究の視点3 豊富な労働力と豊かな資源 【資料5】豊かな資源と人件費 豊かな資源があり、多くの人が働くので安く多くの生産ができるのだな。	課題を生み出すための導入資料 【資料1】都市部の景観写真とGDPの変化 【資料2】中国とインドの人口の変化 ・グラフの読み取り方を説明した上で、各国の経済成長率と人口の増加について分かることを発言させる。 ・グラフは黒板に掲示し、また、ワークシートにも記載しておく。 人口や国土の面積だけが経済成長と関連しているわけでないことと生徒から発言させるよう問い返しの質問をする。 課題解決のヒントとなる資料 【中国やインド国内で展開する外国の企業】 ・生徒にとって身近な商品を提示しながら、多くの外国の企業が中国やインドと関わりもっていることに気付かせる。 ・個人追究でつまずく生徒には机間指導にて、資料の読み取りを指導助言する。
まとめる	5 まとめる。 中国やインドが急激に成長できたのは・・・という言葉でまとめる。 中国やインドが急激に経済成長できたのは、豊かな資源や労働力を生かしたからだけでなく、外国企業や人との関わりを積極的に行うようになってきたからだと分かった。また、貧富の差が激しいことが課題である。	評価規準 急激な経済成長の要因は、豊かな労働力や資源だけでなく、経済開放政策を基に発展していると理解できている。 (思考・判断・表現)